

農 薬 名	成 分 名	FRAC コード	適 用 病 害 虫 名							注 意 事 項
			う ど ん こ 病	疫 病	果 実 斑 点 細 菌 病	褐 斑 細 菌 病	菌 核 病	つ る 枯 病	白 斑 病	
トリフミン水和剤	トリフルゾール	3	◎							
パンチョTF顆粒水和剤	シフルフェナミド・トリフルゾール	U06・3	◎							
フェステイバルC水和剤	ジメトモフ・銅	40・M01		◎						◎
フォリオゴールド	メタラキシルM・TPN	4・M05		◎						◎
フルピカフロアブル	ホニビリム	9	◎							
プロパティフロアブル	ヒリオフェノ	50	◎							
プロポーズ顆粒水和剤	ベンチアハリカルブイソプロピル・TPN	40・M05	◎	◎						◎
ベジセイバー	ベンチオラト・TPN	7・M05	◎					◎	◎	◎
ベトファイター顆粒水和剤	シモキサール・ベンチアハリカルブイソプロピル	27・40		◎						
ベフドー水和剤	イミダクジン酢酸塩・塩基性塩化銅	M07・M01	◎	◎					◎	
ベルクート水和剤	イミダクジンアルベシル酸塩	M07	◎							
ペンコゼブ水和剤	マンゼブ	M03		◎						◎
ベンレート水和剤	ベノミル	1							◎	
ポリオキシシナL水溶剤	ホリオキシシ	19	◎					◎		
ポリベリン水和剤	イミダクジン酢酸塩・ホリオキシシ	M07・19	◎					◎		
モレスタン水和剤	キノキサリン系	M10	◎							
ライメイフロアブル	アミスフロム	21		◎						◎
ラミック顆粒水和剤	イミダクジンアルベシル酸塩・ヒリオフェノ	M07・50	◎							
ラリー水和剤	マイクロタール	3	◎							
ランマンフロアブル	シアゾファミド	21		◎						◎
ルビゲン水和剤	フェナリモル	3	◎							
Zボルドー	塩基性硫酸銅	M01			◎	野				野
Zボルドー粉剤DL	塩基性硫酸銅	M01		◎						

注) イミダクジン酢酸塩とイミダクジンアルベシル酸塩は、成分が「イミダクジン」として取り扱われるので、使用の際は有効成分の総使用回数を超えないように注意する。

オ 病害虫防除法（カボチャ）

（ア）うどんこ病 *Sphaerotheca fuliginea*

（防除のねらい）
（耕種的防除法） } キュウリの項参照

（イ）疫 病 *Phytophthora capsici*

（防除のねらい）

本病菌はウリ科やナス科作物も侵すので、多発ほ場では輪作体系を考慮する。

一般に排水不良や湛水した場合に発生が多いので、排水対策を第一に考える。薬剤防除は発生前から予防的に定期的実施する。特に風雨前の防除に心掛ける。

（耕種的防除法）

- （1）常発地では連作を避ける（ウリ科，ナス科）。
- （2）排水溝を整備し，高畦栽培とする。

（ウ）果実斑点細菌病（果実斑点細菌症） *Pseudomonas syringae* pv. *syringae*

（防除のねらい）

低温期に雨が多い年に発生しやすく，さらに霜害により助長される。常発地では定期的な防除に加えて，強風雨後や霜害発生後の防除が必要である。

（耕種的防除法）

防風および防霜に努める。

（エ）褐斑細菌病 *Xanthomonas campestris* pv. *cucurbitae*

（防除のねらい）

やや低温で雨がが多いときに発生が多い。露地では風雨による風ずれで発生しやすい。べと病やウリハムシの食害は本病を誘発するので，これらの防除も充分行う。

（耕種的防除法）

- （1）マルチ栽培をする。
- （2）露地栽培の常発地では連作を避ける。
- （3）排水，暴風対策を講ずる。

（オ）菌 核 病 *Sclerotinia sclerotiorum*

（防除のねらい）

（耕種的防除法） } キュウリの項参照

（カ）白 絹 病 *Corticium rolfsii*

（防除のねらい）

高温多湿，土壌が酸性の場合に発生が多い多犯性病害でマメ科，ナス科の跡地では発生しやすい。発病してからの防除は困難なので，事前対策を講じておく。

（耕種的防除法）

- （1）発病畑は3～4ヶ月湛水するか，田畑輪換する。
- （2）植え付け前には石灰質肥料を十分施す。
- （3）病株は菌核ができないうちに早めに抜き取る。

（キ）つる 枯 病 *Mycosphaerella melonis*

（防除のねらい）

（耕種的防除法） } キュウリの項参照

（ク）灰色かび病 *Botrytis cinerea*

（防除のねらい）

（耕種的防除法） } キュウリの項参照

（ケ）白 斑 病 *Cephalosporiopsis cucurbitae*

（防除のねらい）

抑制栽培の9月～10月にかけて高温，多湿で発生が多い。発病は株元からはじまり，葉，葉柄，つる，果実に発病する。風通しをよくし，発病初期に防除を徹底する。

（耕種的防除法）

- （1）抑制栽培では早植えを避ける。
- （2）過繁茂しないよう肥培管理に注意する。
- （3）被害茎葉はほ場外に持ち出し処分する。

（化学的防除法の注意事項）

発病初期から防除する。

(コ) フザリウム立枯病 (カボチャ立枯病)

Fusarium solani (Martius) Sac-cardo f.sp.*ncucufbitae* Snyder et Hansen

(防除のねらい)

株元は褐変してくびれ、表皮はコルク化する。胞子で土壌中に長期間生存し土壌伝染するとともに種子伝染もするので、播種前または播種の防除に重点をおく。

(耕種的防除法)

- (1) 発病株は直ちに取り除く。
- (2) 発生ほ場では、病原菌が土壌中に残るので連作を避ける。

(サ) ペ と 病 *Pseudoperonospora cubensis*

(防除のねらい)

キュウリの項参照

(耕種的防除法)

(化学的防除法の注意事項)

下葉から中葉に発病が多く感染が気孔から行われるため、気孔の多い葉裏面にも薬剤が充分付着するように散布する。

(シ) モザイク病

(防除のねらい)

キュウリの項参照

(耕種的防除法)

(ス) ミナミキイロアザミウマ・アザミウマ類

(防除のねらい)

キュウリの項参照

(耕種的防除法)

(セ) コナジラミ類 (タバココナジラミ)

(防除のねらい)

被害症状は作物によって異なり、カボチャでは葉、茎および果実に白化症状を生じる。果実に生じた場合、商品価値が下がるので、幼苗期から注意し、白化症状を認めたら、成虫の発生が認められない場合でも、直ちに防除する。

(ソ) アブラムシ類

(防除のねらい)

キュウリの項参照

(耕種的防除法)

(タ) タバコカスミカメ

(防除のねらい)

育苗から生育初期にかけて成長点を加害するので、白い傷葉を生ずる。

(チ) ハスモンヨトウ

(防除のねらい)

ハウス内でも発生するが、特に露地栽培の抑制カボチャに多く、葉だけでなく、果実の表皮を食害して品質の低下をきたす。早期発見に努め、若齢幼虫のうちに防除する。

(耕種的防除法)

ふ化直後の集合加害している幼虫を分散前につみとる。

(ツ) ウリハムシ

(防除のねらい)

キュウリの項参照

(耕種的防除法)

(テ) カボチャミバエ

(防除のねらい)

開花期から収穫間際まで長期間産卵するので、この間の防除が必要になる。

(ト) ネコブセンチュウ類

(防除のねらい)

キュウリの項参照

(耕種的防除法)